大阪大学21世紀懐徳堂
活動報告書2023

大阪大学

大阪大学
21世紀
懐徳堂

目次

21世紀懐徳堂とは P.02

大阪大学公開講座 P.03

大阪大学公開講座　参加者アンケート P.04

サイエンスアゴラ in 大阪 P.05

サイエンスアゴラ in 大阪　参加者アンケート P.06

阪大ワニカフェ P.07

社学共創プロジェクト

クリエイティブアイランド中之島 P.08

アートエリアB1／ラボカフェ P.09

生涯学習講座 P.10

文化活動 P.11

いしばしプロジェクト P.12

ウェブサイトリニューアルに関する報告 P.13

広報活動 P.14

アウトリーチ活動支援 P.15

21世紀懐徳堂スタジオの利用状況 P.16

21世紀懐徳堂とは

大阪大学の精神的源流は2つあります。ひとつが緒方洪庵の「適塾」であり、もうひとつが、大坂の商人たちが身分の枠を超えて学問を通じ自己研鑽することをめざして1724年に創設した学問所である「懐徳堂」です。「21世紀懐徳堂」は、懐徳堂の志を受け継ぎ、市民と共に学ぶ場、知のネットワークの拠点となるべく2008年に創設されました。

大阪大学(OU)は、教育研究活動の成果を大学から社会に還元するとともに、社会と共に考える中で新たな課題を発見し教育研究の場に持ち帰り、さらなる社会の発展に貢献する成果を生み出すことをめざしています。この循環の輪である「OUエコシステム」の一翼を担うべく、21世紀懐徳堂は、本学の教育研究活動の成果を社会へ伝えるアウトリーチ活動を基盤とし、社会の中で市民と共に考える社学共創の営みを通じて生きがいを育む社会を創っていきます。

○吹田キャンパス

SSIや渉外部門等と連携している。

○豊中キャンパス

21世紀懐徳堂スタジオのある
豊中キャンパス

○箕面キャンパス

外国学研究講義棟（写真左）に
隣接する複合施設（写真右）では、
生涯学習講座を行っている。

○中之島センター

中之島センターでは
大阪大学公開講座等を開催

● 大阪大学公開講座

【活動概要】 1968年に「開放講座」と称してスタートし、脈々と続いてきた「大阪大学公開講座」は、コロナ禍の時期にはオンライン開催のみでの実施を余儀なくされた。年間の回数も3回に絞り、規模を縮小していたこともあったが、第54回では9講義まで復活させることができた。2023年の第55回では、2年間のリニューアル工事を終えた中之島センターに会場を戻したことで、参加者には、講義の内容はもとより、10階「佐治敬三メモリアルホール」からの美しい夜景も楽しんでいただけるようになった。

【開催概要】

対　　象 ： 一般・学生
定　　員 ： 各回100名
開 催 日 ： 9月28日(木)・10月4日(水)・10月12日(木)・10月19日(木)・
10月26日(木)・11月8日(水)・11月15日(水)・11月22日(水)・12月7日(木)
会　　場 ： 大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール
大阪大学中之島センター 3階 アートスクエア
（中之島芸術センター内スタジオ）
※後日オンデマンド配信あり
受講者数 ： 延べ793名（対面491名・オンライン302名）

第55回受講者募集チラシ表紙

【成果】

毎年の開催時に幅広い分野の講義にも通じる共通タイトルをつける伝統を引き継いでいて、第55回は「混沌とする世界を見抜く共創と対話」とうたい、「微小な世界から宇宙空間に至るまで」多様な分野の研究者が登壇した。

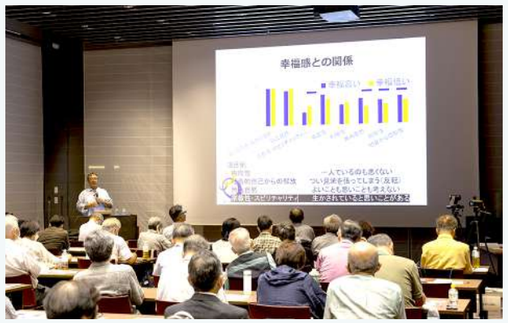
また、公開講座は「研究者が一方的に語るのではなく、参加者との対話を通じて新たな課題を見出し、次の教育研究につなげる『社学共創』」を理念としているため、講演テーマや分野、講師などの希望も募り、企画に生かしている。

コロナ期のオンライン開催の経験を生かして、会場での対面開催を原則にしながら、講義の模様を編集したものをVimeoを使ってオンデマンドで何度でも（期間は限定）、視聴していただける仕組みにしている。対面聴講した人がもう一度「復習」できること、遠距離の方にもオンライン参加してもらえることで、申込者は全国に広がっている。

【課題】

【成果】に記した「参加者との対話」を一層進めるために、さらに新たな試みに挑戦したい。講義後にいただく質問の手法にも、工夫を凝らしていく。

参加者へのアンケートも回を経るごとに項目を充実させ、その分析にも力を入れている。それらの結果を次回の講座に生かすとともに、登壇した講師のその後の研究でも役立ててもらえるような展開を一層進めていきたい。



第1回「人生100年時代を生きる」を聴講する受講生の様子

第5回ではピアノを用いた講義を開催

● 大阪大学公開講座　参加者アンケート

【調査概要】 2023年9月28日～12月7日に21世紀懐徳堂が実施した第55回大阪大学公開講座全9回の受講者を対象にアンケート調査を実施した。講義当日は会場にてアンケート用紙を配布し講義終了後に回収した。また、ウェブ上にアンケートフォームを設置しアーカイブ動画の視聴期間終了時まで入力を受け付けた。受講者延べ793名のうち479名から回答を得た。アンケート回収率は60.4%であった。

【アンケート結果の一部】

・「本日のプログラムをどのようにしてお知りになりましたか」という質問項目に対し、表1のような回答結果が得られた。大阪大学及び21世紀懐徳堂のウェブサイト上から開催情報を得た割合が多数を占めた。
・「本日のプログラムを受講した理由は何ですか」という質問項目に対し、表2のような回答結果が得られた。参加者の、講座のテーマやプログラムへの関心の高さ及び教養を高めることに対する意欲の高さが明らかになった。
・「本日のプログラムで特に良かった点について教えてください」という質問項目に対し、表3のような回答結果が得られた。「最先端の研究について学べた」との回答が過半数を占めた（53%）。順に、「社会課題解決のヒントを得た」（16%）、「大学の講義の雰囲気を味わえた」（11 %）の回答が続いた。
・プログラムの内容に対する満足度（図1）と理解度（図2）の高さから、受講した方々のニーズにフィットした講座内容となっていることが確かめられた。

表1　開催情報を得た媒体について

媒体の種類	
①チラシ	80
②ウェブサイト	129
③SNS	4
④21 世紀懐徳堂メルマガ	51
⑤大阪大学卒業生メルマガ	4
⑥知人からの紹介	49
⑦関係者からの紹介	13
⑧自治体の広報・掲示	17
⑨その他	12

表2　受講の動機について

受講した理由	
①全体テーマ「混沌とする世界を見抜く共創と対話」に関心があったから	143
②本日のプログラム内容に関心があったから	232
③本日のゲストに関心があったから	24
④大阪大学のプログラムに参加したかったから	59
⑤教養を高めたいから	162
⑥仕事に役立つと思われたから	11
⑦日常生活に役立つと思われたから	68
⑧余暇を有効に利用したかったから	50
⑨大阪大学の中之島センターを訪れてみたかったから	50
⑩その他	28

表 3　プログラムでよかった点について

回答項目の種類	
①「混沌とする世界を見抜く共創と対話」というテーマについて考えられた	32
②最先端の研究について学べた	174
③大学の研究者と対話ができた	13
④大学の講義の雰囲気を味わえた	37
⑤大阪大学について知ることができた	4
⑥身の周りの社会課題に来する解決のヒントが得られた	53
⑦その他	16

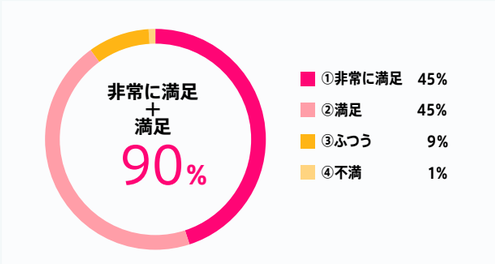


図1　プログラムの満足度

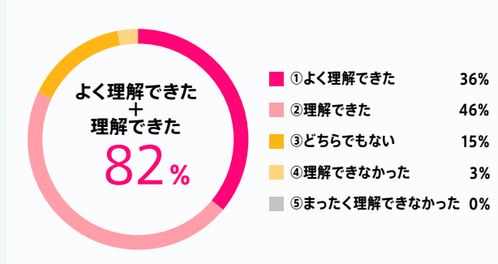


図2　プログラムの理解度

● サイエンスアゴラ in 大阪「水都大阪のバタフライエフェクト～いのちをめぐる人・まち・世界」

【企画趣旨・実施内容】 サイエンスアゴラin大阪は、2025年の大阪・関西万博「いのち輝く未来社会のデザイン」に向け、多様な価値観が交錯するラウンドテーブルとして、2021年から中之島を舞台に開催。3回目となる2023年度のテーマは【いのち、地球・水環境】などをキーワードに企画内容を検討した。今回は、いのち、水環境、まちづくり、建築、防災等の専門家や実践者が集い、個々の研究や活動の点と点を繋げ、思考・思想の線や円を描き、対話の循環を通じて、一人と世界の関係性について考察を深めることを目的に、2023年4月にリニューアルオープンした大阪大学中之島センターにて開催した。

【開催概要】

日　　時 ： 2024年3月15(金)18:30 - 20:30 (18:15開場・受付開始)
場　　所 ： 大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール
参 加 費 ： 無料
観覧方法 ： 対面80名
オンライン参加
当日視聴95名
アーカイブ視聴171名 (2024年3月19日時点)
ウェブアーカイブ https://www.youtube.com/watch?v=BtJapVFEzyU&t=7095s
主　　催 ： 大阪大学21世紀懐徳堂
共　　催 ： 科学技術振興機構、クリエイティブアイランド中之島実行委員会、アートエリアB1
後　　援 ： いのち会議

サイエンスアゴラin大阪 チラシ

【登壇者／プログラム】

・基調講演「「いのち」に立ち返る意識と行動 ～「いのち会議」と「いのち宣言」～」
堂目卓生（大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長）
・ディスカッション「水都大阪のバタフライエフェクト～いのちをめぐる人・まち・世界」
堂目卓生（大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長）※ファシリテーター
沖 大幹（東京大学総長特別参与、大学院工学系研究科教授）
永山祐子（永山祐子建築設計 代表）
杉本容子（株式会社ワイキューブ・ラボ 代表取締役／一般社団法人水辺ラボ 代表理事）
防災ファッションラボ（多田裕亮、古市優衣、松浦翔多朗）

【成果・効果（開催意義、参加者・視聴実績）】

2025年の大阪・関西万博に向けて、直接・間接的に関わる登壇者（基調講演・ディスカッション）からは、一人ひとり、個別の専門性や活動実績に基づいた考察と実践が示されたとともに、開催地である大阪・中之島の民意による都市の成り立ちを踏まえた都市の課題や可能性について議論が展開されたことは、本プログラムの意義と目的が達成されたと考える。また、現在の規制・コンプライアンス意識や価値観の過剰さへの警鐘が、大変、意義深く貴重なメッセージとして伝わったことが、参加者の方々のアンケートや満足度から推察される。プログラム終了後、登壇者と企画主体の関係者（科学技術振興機構、大阪大学、クリエイティブアイランド中之島等々）が水都大阪の体験クルージングと意見交換会を実施した。水都大阪の歴史やまちづくりについて実体験を通じて理解を深めることが可能となり登壇者はもとより参加関係者からも大変好評であった。2025年までの2開催についてのテーマや方向性や枠組みついてもより具体的な意見交換と交流の機会となったことは、次に繋がる着実な実績となった。

【課題】

事前申込者は100名であったが、当日の実来場者は80人が参加し、95人がオンライン参加であった。実来場参加者は、スーツ姿などのオフィスワーカよりも私服姿の50代が半数を占めており、内容の充実に関わらず、参加者層の拡大や広報の課題は否めない。

● サイエンスアゴラ in 大阪　参加者アンケート

【調査概要】 2024年3月15日に21世紀懐徳堂が実施したサイエンスアゴラin大阪の参加者を対象にアンケート調査を実施した。当日は会場にてアンケート用紙を配布し、プログラム終了後に回収した。また、ウェブ上にアンケートフォームを設置し、同時配信によるオンライン参加者にも回答を呼びかけた。当日の参加者延べ175名（対面80名、オンライン95名）のうち52名から回答を得た。アンケート回収率は30％であった。

【アンケート結果分析の一部】

・**「本日のプログラムをどのようにしてお知りになりましたか」**という質問項目に対し、表1のような回答結果が得られた。チラシ及び21世紀懐徳堂のメールマガジンから開催情報を得た割合が高かった。
・**「本日のプログラムで特に良かった点について教えてください」**という質問項目に対し、表２のような回答結果が得られた。「ディスカッションテーマ「水都大阪のバタフライエフェクト～いのちをめぐる人･まち･世界」について考えられた」との回答が過半数を占めた。
・**「本日のプログラムを受講した理由は何ですか」**という質問項目に対し、表３のような回答結果が得られた。基調講演の内容や大阪大学のプログラムに関心をもって参加した人の割合が高かった。また、「日常生活に役立つと思われたから」「仕事に役立つと思われたから」との回答も多く、参加者の生涯学習に対する意欲の高さもうかがえた。
・**プログラムの満足度**（図1）については、「非常に満足」「満足」合わせて87％という結果が得られた。
・過去に大阪大学のプログラムに参加したことがある人の割合は70％であったが（図2）、そのうち「サイエンスアゴラin大阪」への参加は33％であった（図３）。「サイエンスアゴラin東京」への参加は5％、認知度については19％であった（図４）。

表1　開催情報を得た媒体について

媒体の種類	
①チラシ	13
②ウェブサイト	6
③SNS (X:旧Twitter、Facebook、Instagramなど)	5
④21世紀懐徳堂からのメールマガジン	10
⑤大阪大学卒業生メールマガジン	2
⑥知人からの紹介	8
⑦講師・スタッフからの紹介	9
⑧自治体の広報・提示	3
⑨科学技術振興機構(JST)からの案内及びSNS等	1
⑩その他	5

表２　受講の動機について

解答項目の種類	
①基調講演「「いのち」に立ち返る意識と行動～「いのち会議」と「いのち宣言」～」の内容について学べた	9
②ディスカッションテーマ「水都大阪のバタフライエフェクト～いのちめぐる人･まち･世界」について考えられた	24
③身の回りの社会課題に対する解決のヒントが得られた	9

表３　受講の動機について

参加した理由	
①本日の基調講演「「いのち」に立ち返る意識と行動～「いのち会議」と「いのち宣言」～」の内容に関心があったから	13
②ディスカッションテーマ「水都大阪のバタフライエフェクト～いのちめぐる人･まち･世界」の内容に関心があったから	6
③本日のゲストに関心があったから	5
④大阪大学のプログラムに参加したかったから	10
⑤教養を高めたいから	2
⑥仕事に役立つと思われたから	8
⑦日常生活に役立つと思われたから	9
⑧余暇を有効に利用したかったから	3
⑨大阪大学の中之島センターを訪れてみたかったから	1
⑩サイエンスアゴラに興味があったから	5
⑪その他	2

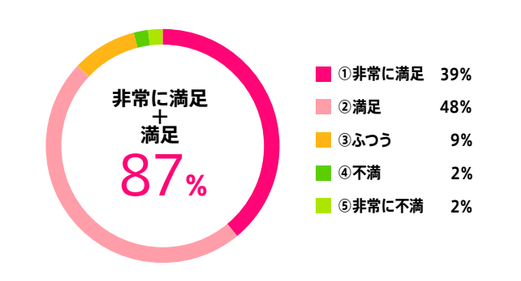


図1　プログラムの満足度

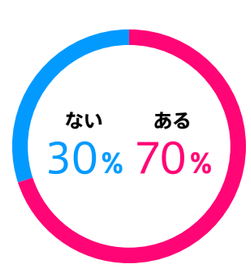


図2 大阪大学のプログラムへの参加

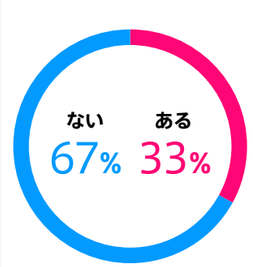


図3「サイエンスアゴラin大阪」への参加

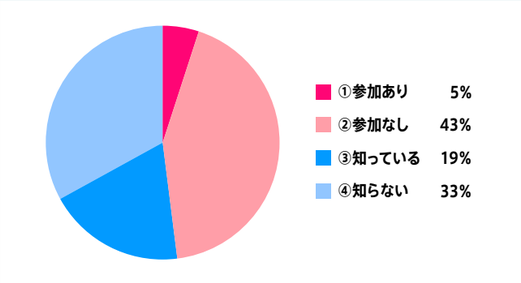


図4　「サイエンスアゴラin東京」への参加／認知

● 阪大ワニカフェ

【活動概要】地域の幅広い住民を対象に、大阪大学のアウトリーチ活動の一環として、既存のサイエンスカフェの手法を発展させた「阪大ワニカフェ」は、2022年12月から展開し、2024年3月時点で17回を数える。ヨーロッパで始まったサイエンスカフェは、専門家と一般の人々が科学（自然科学だけでなく、人文･社会科学も含む）について気軽に語り合う場を作ろうという試みである。カフェのような打ち解けた空間で実施することで、参加者が気軽に発言できる環境をつくること、そのもとで専門家と参加者のあいだで双方向的な対話が実現することが可能になっている。

その手法を阪大独自の「ワニカフェ」として特化し、好評をいただいている。「ワニカフェ」の名前は、阪大の敷地で骨格が発見されたマチカネワニをモチーフにした阪大の公式マスコット「ワニ博士」を由来とする。

【イベント概要】

会　　場 ： 大阪大学箕面キャンパス　外国学研究講義棟５階「学生交流スペース」
千里文化センター「コラボ」
江坂公園　PARK CAFE BRANCOなど

定　　員 ： 30人程度

日　　時 ： 休日の午後が多いが、バーは平日の夜開催。今後も柔軟に開催する。

阪大ワニカフェ チラシ

【成果】

当初は、「会場から果たして、それほどの質問が寄せられるだろうか」との不安を抱えていた。だが現状としては、2時間のうちゲスト（研究者）が15分程度、問題提起をすると、残りは毎回、途切れないほどの質問、意見、経験談などが寄せられ、会場はどんどん活気づく様子が見られる。講師を務めた医学部教授から「私たち医者が、いかに患者さん、市民の皆さんの気持ちを理解できていなかったか、痛感できて本当に良かった」との声も出た。

ゲストと参加者との対話だけでなく、グループに分かれての意見交換や、ワークショップの開催なども行っている。これまで、医学部附属病院による「面白い巨塔編」シリーズではじめ、その後は「まちづくり編」「歴史学編」「アート編」「番外編」と多様なテーマ･講師で充実させてきた。

通常は日昼、コーヒーを飲みながら「カフェ」の雰囲気を楽しむが、2024年２月から初めての試みとして、夜にアルコールを味わいながらの「ワニカフェ」も行い、大人気となった。

【課題】

シリーズは主催者の方で考えてきたが、今後は参加者のご希望などもより生かしていきたい。

皆さんで語り合えるように定員を30人程度に抑えているが、定員超えで参加をお断りするケースも出てしまっている。何とか適正規模で皆さんに楽しんでもらえるようなしつらえを目指したい。

2024年３月までは21世紀懐徳堂がプラットフォームを担ってきたが、４月以降はこれまでも一緒に運営してきた共創機構渉外部門とのダブル主催で行うこととする。同部門は、大学運営のために浄財をいただく寄付を募っているセクションであり、すでにカフェ参加者からも寄付のお申し出をいただいている。参加者のますますのご協力とご理解をちょうだいして参りたい。

ゲストの話に熱心に耳を傾ける参加者＝箕面キャンパスで

グループに分かれて討論も＝千里文化センター「コラボ」で

● クリエイティブアイランド中之島

【活動概要】水都大阪を象徴する中之島は、多様な文化施設が集積し、歴史的建造物や高層ビル、水辺環境や公園などが共存し、パリのシテ島、ベルリンのムゼウムスインゼルに類する世界的な都市空間である。「クリエイティブアイランド中之島」は、文化施設、企業、大学等14の参加機関による国内最大規模の創造ネットワークとして2019年度に組織し、定期的に議論を重ね、中長期的な将来ビジョンに基づき、2020年度より事業を始動している。本共創事業では、中之島全体をユニークベニュー「創造的な実験島」として、多様な物事の創出や都市格の向上に資する活動を展開している。

【クリエイティブアイランド中之島実行委員会 構成団体】

実行委員長 西尾章治郎 (大阪大学 総長)
大阪府立国際会議場、大阪市中央公会堂、大阪市立科学館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪大学・ダンスボックス・京阪ホールディングス（アートエリア B1）、大阪中之島美術館、graf、国立国際美術館、こども本の森 中之島、中之島香雪美術館、中之島まちみらい協議会、フェスティバルホール

【沿革】

・2018 年～ アートエリア B1（大阪大学 / 京阪ホールディングス / ダンスボックス）が、文化庁戦略的芸術文化創造推進事業「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」として、中之島を拠点とする文化施設と連携したツアーやトークなどを実施。
・2019 年～　中之島に拠点をおく 12 の組織が集まり、クリエイティブアイランド中之島実行委員会設立。プロジェクトチームを設置。
・2020 年～　大阪市中央公会堂、こども本の森 中之島が開館を迎え、14 機関が参画。文化庁戦略的芸術文化創造推進事業に採択され、2022 年度までの3年間、事業を推進。ウェブサイトを開設し、コロナ禍はオンライン企画等を開始。
・2023 年～　2025 年関西・大阪万博を契機にシンボル事業「中之島パビリオンフェスティバル（仮）」を構想。

【2023年度の主な活動概要】

月１回程度の企画チーム会議、年１回の実行委員会（総会）、その他、各種ワーキング等を開催
･アーティストディレクションによるプロモーションのためのリサーチ世界的演劇カンパニー「チェルフィッチュ」岡田利規氏の招聘
･コア期間（10-12月）の企画実施
・中之島まちみらい協議会、大阪市中央公会堂のミーティングポイント活用
･2025年シンボル事業「中之島パビリオンフェスティバル（仮）」の構想
・『日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業（委託型）」』申請

岡田利規氏リサーチ①

岡田利規氏リサーチ②

広報チラシ

フォトコンテストチラシ

【成果と課題】

･文化施設、企業、大学等14の参加機関による国内最大規模の創造ネットワークは全国的にも稀な事例であり、社会的意義のある社学共創プロジェクトとして期待されている。
･結成当初はコロナ禍で制限はあったが、文化庁戦略的芸術文化創造推進事業に採択され、各組織の資産を活用した活動が可能となったことは、文化活動が危機的状況にあった渦中において重要かつ意義のある活動となった。
･2021年度は大阪中之島美術館開館を記念し多数プログラムを実施。2022年度は事業全体のプロモーションを展開。2023年度はシンボル事業の計画や文化庁日本博申請など、持続可能性に向けた方策を展開している。
･各組織の有効な広報ツールや、今あるプロモーションコンテンツを活かす広報戦略が不可欠である。
･事業継続のための安定的な財源確保について各組織が検討し、予算措置の可能性を継続的に探る必要性がある。
･クリエイティブアイランド中之島の広報力を高める方策の1つには、ウェブサイトの閲覧数を上げるためにも、各館のイベント情報をクリエイティブアイランド中之島ウェブサイトへの掲載作業が不可欠である。
･事務局等の実施体制の整備の課題がある。

● アートエリアB1／ラボカフェ

【活動概要】 アートエリアB1は大阪・中之島にある、京阪フォールディングス株式会社、大阪大学、NPO法人ダンスボックスが三者協議で運営するコミュニティスペースである。
　大阪大学の教育研究活動の成果を社会へ伝えるアウトリーチ活動の一環として、アートエリアB1では「ラボカフェ」を開催している。「ラボカフェ」は、哲学・アート・デザイン・サイエンス・鉄道など多様なテーマについて対話を重ねるプログラムである。
主に学内の教職員から持ち込み企画を募集し、シリーズ化する企画等もある。

【イベント概要】　**対象** ： 一般　**会場** ： アートエリア B1　**定員** ： 回によって異なる　**入場料** ： 無料

【大阪大学SEEDSカフェ】「高校生が大阪大学で研究をしてみた～研究発表～」　参加者：各回173名程度（オンライン含む）

第14回　2023年11月14日（木）「タンパク質修飾とオートファジーの関係～パルミトイル化反応阻害してみた～」
第15回　2024年1月25日（木）「商業施設前の小規模なオープンスペースについての研究～あべのHoopを対象に～」
第16回　2024年3月27日（水）
第1部「サーファクチンエマルションの安定性のin situ顕微測定～スキンケアの質の向上を目指して～」
第2部「放射線放射線測定のための蛍光イメージング～中学生が身近なカメラで挑む～」

「SEEDSカフェ」で発表する高校生

【成果】 SEEDSカフェは大阪大学SEEDSプログラムで一年以上活動した高校生が研究成果を一般の方にもわかりやすく発表する機会である。高校生の視点で一般の人に向けて研究発表を行うことは大学の研究を身近なものとして理解してもらう効果があった。また指導教員にも参加してもらうことで研究の専門性に興味のある聴衆にも満足してもらえた。
【課題】 プログラムのスケジュールに合わせて現在は実施月が偏る傾向にあるが、年間を通じて実施できるのが望ましい。また年間４人程度がSEEDSカフェでの研究発表を希望しているができれば増やしたい。

【接合科学カフェ】　参加者：各回10名程度

第17回　2023年11月1日（水）「こんなこともやっている！？ ～日本でも居心地のいい研究所生活を～」
第18回　2024年1月17日（水）「こんなこともやっている！？ ～まさかこれが原料に？地球に優しい新素材～」
第19回　2024年3月22日（金）「こんなこともやっている！？ ～電子機器を支えるはんだ付の世界～」

「第18回 接合科学カフェ」の様子

【成果】 本年度の接合科学研究所主催の接合科学カフェは、「こんなこともやっている！?」と題して「溶接・接合」の言葉から連想され難い内容をピックアップして紹介し、より多様な研究活動成果を伝えることができた。
【課題】 本年度より会場参加のみの開催に戻したことで会場での活発な対話ができ、アンケート結果も好評であったが、コロナ禍前と比較してやや少ない参加人数であった。今後、告知方法なども検討し参加者増加に繋げたい。

【阪大院生ゼミナールカフェ】　参加者：4名

vol.7　2024年3月6日（水）「哲学カフェ：みんなと共に考える、HPVワクチンのこと」

「阪大院生ゼミナールカフェ」の様子

【成果】 授業で学んだ「自分の研究をどのようにアウトリーチするか」について、企画した大学院生が実践的に学ぶ機会となった。当日は、企画者を含めた6名でワクチン接種を中心的なテーマに据えながら、意思決定のあり方や公的機関の役割についてなど、幅広い問題について語り合うことができた。
【課題】 事前申込制・定員10名以内と、最初から小規模な人数でじっくり対話することを主目的に据えた企画ではあったが、事前の広報活動をもう少し広く展開し、参加者を受け入れ可能な最大限の人数まで増やすことができればよかった。

● 生涯学習講座（箕面市立船場生涯学習センター）

【活動概要】 箕面市立船場生涯学習センターは、大阪大学が指定管理者として管理・運営している施設である。趣味、サークル活動、会議・研修、講演会などの活動の場として、貸会議室、貸スタジオ及び屋外運動場を提供している。
　また、本学教員および図書館職員が登壇する講座や、子どもを対象とした講座など、市民向けの自主企画講座を実施している。

【成果】
(1) 春の生涯学習講座
「たのしくうんどう！せんばスポチャレ☆」をテーマに、全3回の講座をみのおNEXTスポーツコミュニティパートナーズ協力のもと実施し、計30名の受講生が参加した。
(2) 夏の生涯学習講座
・「みのせんワールド～広い世界をのぞいてみよう～」を、箕面市国際交流協会と連携して実施し、14名の受講生が参加した。
・「めざせ！けん玉マスター☆」をテーマに、全3回の講座を実施し、計49名の受講生が参加した。
(3) 秋の生涯学習講座
・「健康長寿を実現するためには」をテーマに、全4回の講座を実施し、計74名の受講生が参加した。
・「ロシアを知る」をテーマに、全4回の講座を実施し、計88名の受講生が参加した。
・「トークサロン『世界への窓』～ピアノ国際コンクールを比較することから見えてくるもの～」を実施し、16名の受講生が参加した。
・「たのしくうんどう！せんばスポチャレ☆」をテーマに、全3回の講座をみのおNEXTスポーツコミュニティパートナーズ協力のもと実施し、計19名の受講生が参加した。
(4) 冬の生涯学習講座
「文化芸能劇場見学ツアー」を実施し、15名の受講生が参加した。
(5) 図書館講座（箕面市立船場図書館との共同実施）
・「読みたい本を探そうー図書館員の検索術ー」を実施し、28名の受講生が参加した。
・「図書館でわがまち探訪ー『地域資料』を使ってみようー」を実施し、28名の受講生が参加した。
・「図書館活用法　～情報検索と図書館利用のコツ～」を実施した。同内容で2回開講し、計52名の受講生が参加した。

【課題】
　講座定員充足率を伸ばす余地がまだある。2023 年度末に箕面船場阪大前駅（北大阪急行線）が開業し、駅から徒歩すぐの立地になるため、利用者が足を運びやすくなる。各種広報媒体にて講座を周知し、市民の関心が高い内容の講座を企画検討していきたい。

「みのせんワールド」を受講する小学生

「読みたい本を探そうー図書館員の検索術ー」の様子

● 文化活動 (ハンダイラジオ/阪大万博/まちっと北摂)

ハンダイラジオ（みのおエフエム）

【活動概要】みのおエフエムでは10年以上、「まちのラジオ」の第２金曜日に阪大の活動を紹介してきたが、2023年度から「ハンダイラジオ」として大学名を冠とし第５日曜日の午後３～４時に放送されるレギュラー番組に衣替えを行った。21世紀懐徳堂の事業・活動の紹介はもとより、コロナ問題などで著名な忽那賢志・医学系研究科感染制御医学講座教授による感染症に関するお話、外国語学部の「語劇祭」の事前告知など、本学の活動・研究を幅広くＰＲする場となっている。さらに2023年度からは、放送した番組をYouTubeに音声・動画として編集し直して配信している。

共演した忽那教授(左端)と
外国語学部の学生たち

【成果】阪大特化の番組にしたことにより、聴取者に強いインパクトを与え、ファンの固定につながっている。放送エリア以外の地域でも、同局ホームページを通じて、全国どこからでも聴取可能であり、卒業生メルマガなどで番組告知するなど、広く関係者にアピールできている。再編集した動画をYouTubeでも配信しており、番組の模様が映像で視聴できるため、より臨場感のある内容を楽しんでもらえるようになっている。忽那教授の番組では、途中で外国語学部の学生によるコーラスの披露があったり、両者でのトークをしたり、異色のコラボレーションが展開された。

【課題】多彩な番組展開を心がけているが、まだ情報収集が不足しており、全学のコンテンツをまとめるまでにはいたっていない。学内から「こんなか活動・研究をしているので、番組で紹介させてほしい」などの情報をいただければ有難い。

阪大万博（FM千里）

【活動概要】ＦＭ千里でも、2023年７月から番組出演するようになった。毎週金曜日午後３～４時の番組「寺谷一紀の千里の道は世界へ通ず」の第２週、前半25分間ほどで、21世紀懐徳堂が情報提供するという位置づけで「阪大万博」というコーナーが設けられている。2025年４月開幕の大阪・関西万博の会場で、大阪大学のさまざまな研究・活動を広く社会・世界にアピールしようと準備を整えているので、そのＰＲの場として活用されている。コーナーの最後には「21世紀懐徳堂」の多様なイベントの告知なども行っている。

「阪大万博」収録の様子

【成果】万博紹介では、世界の学生たちとつながろうと活動している学生団体「a-tune」の学生が中心となって出演し、活動を積極的にPRしている。学生にとって「広く市民の皆さんに直接呼びかけるという貴重な経験になっている」と、本学の教育担当理事からも注目されている。

【課題】次年度以降も同様の構成企画で番組を継続する予定だが、万博開催まで時期が迫るなかで、より臨場感のあるコンテンツを提供する必要がある。今後は、一層の工夫を凝らしていきたい。現在は、学生の企画を教員が修正・助言して番組台本を制作しているが、学生がより自発的に番組発信できるよう支えていきたい。

まちっと北摂

【活動概要】「まちっと」とは、サンケイリビング新聞社が運営する、地域の情報や住まう人のつながりでまちの暮らしを楽しく充実したものにする地域情報プラットフォームである。21世紀懐徳堂では、「まちっと」の北摂版である「まちっと北摂」にて2023年9月からスペシャリストとして投稿をスタートし、主に21世紀懐徳堂での活動やイベント情報などを発信している。

まちっと北摂投稿画面

【成果】2023年9月から2024年3月までで30件を投稿。PVは多いもので283PV。まちっと北摂公式Xでの表示回数が2,469回を記録したものもあり、北摂地域への21世紀懐徳堂の認知度向上とイベントの周知に貢献することができた。

【課題】現状、まちっと北摂での投稿をきっかけにしてイベントに参加してくれたユーザーの割合を測定できていない。今後は、各イベントでアンケート調査を実施するなど、集計・分析を行っていく必要がある。

● いしばしプロジェクト

【活動概要】2021年度から開講している国際交流科目「インターンシップ実習」（春夏・秋冬学期にそれぞれ実施）を受講する留学生や石橋商店街で活動している学生たちと協力しながら、地域や大学が有する知見について相互に共有することで、社学連携の実践を試みている。本プロジェクトは、石橋阪大前駅の周辺地域をひとつのキャンパスに見立て、地域と大学とを結びつけるハブとなり、地域住民と専門家が分け隔てなく自由に対話する場を提供する役割を担うことを目指している。

【成果】

(1)国際交流科目「インターンシップ実習」を受講して地域の課題について学んだ留学生2名が、2023年7月25日（火）に石橋商店街内に設置された地域コミュニティ交流スペース「くるる石橋」にて成果活動報告会を行った。報告会の広報にあたっては、21世紀懐徳堂でチラシの作成配付（写真1）やO+PUS（大阪大学内デジタル掲示板）への掲載を行い、学内外からの参加者を募った。「くるる石橋」は商店街内のオープンスペースに設置しているため、発表会当日は、受講生や担当スタッフを含む参加者のほかにも、商店街を往来する住民の方々にも足を止めてもらうなど、計20名程度の参加があった（写真2）。

(2)みのおエフエムの番組ハンダイラジオの公開収録を2023年10月20日（金）に「くるる石橋」にて実施した。学生団体「石橋×阪大」の一員として、石橋商店街で活動を行う学生が出演し、パーソナリティとの掛け合いを通して、地域で活動することになったきっかけやその魅力が語られ、ラジオのリスナーや商店街を往来する住民の方々に対して広く発信することができた。

【課題】

石橋商店街内にある「くるる石橋」を拠点に、国際交流科目の活動報告会やラジオの公開収録が行われたが、行事自体は単発的な企画であり、参加者の数も限定的であった。本プロジェクトが地域と大学とを結びつけるハブとなる機能を持つためにも、地域団体や関係者との連携を幅広く行い、多くの住民や学生を巻き込んで自由に対話する場を提供する仕掛けを作っていく必要があるだろう。今回の成果を踏まえながら、2024年度は大阪大学の基本理念「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、21世紀懐徳堂が「地域活動と対話」という新たな授業科目を開講する。学生たちとともにキャンパス内にとどまらず地域に出て、哲学カフェの参画などを通して、市民・専門家との対話やフィールドワークを通した地域活動（市民活動）の在り方について議論する場を設ける予定である。

写真１　活動報告会のチラシ（21世紀懐徳堂後援）

写真２　活動報告会の様子（石橋商店街内くるる石橋にて）

● ウェブサイトリニューアルに関する報告

【活動概要】2023年1月10日より、21世紀懐徳堂の新たなウェブサイトの運用を開始した。ウェブサイトリニューアルにあたっては次の3点を目標とした。①21世紀懐徳堂の活動に関心のあるユーザーにとって利便性の高いサイトにする。②新規ユーザーへ向けた効果的な発信ができるようなサイトにする。③21世紀懐徳堂の社学共創の取り組みの魅力を市民に伝えるとともに、学内の連携組織に発信できるようなサイトにする。

▮ ユーザーにとっての利便性の高さを追求する

リニューアル後は、ユーザーがイベント検索を行う際に、条件での絞り込みが可能になり、個別のニーズに即した情報を提供できるようになった。また、イベントのビジュアルを一覧表示することによって、個々のユーザーの関心を視覚的に掘り起こし、新たな学びの場へとつなぐ機能を備えた。

終了したイベントに表示される「再開催をリクエスト」によって、ユーザーのニーズを拾い上げる工夫を凝らした。ニュースページでは、最新情報を一覧で確認できるようにした。

イベント検索画面

ニュースページ

▮ 21世紀懐徳堂の活動を応援してくださる方々を増やす

トップページには「生きがいを育む知のネットワーク拠点」という 21 世紀懐徳堂を表すキーワードを表示し、様々なカラーのラインが互いに行き交いながら拡張するデザインによって「社学共創」のイメージを表現した。

また、中之島の地図の上に懐徳堂二代目学主中井竹山の後ろ姿の肖像画を配置した。町人と学者が共に集い学んだ懐徳堂のような場を、現代において市民の方々大学とが実現していくという 21 世紀懐徳堂のミッションを表現した。

トップページ画像1

トップページ画像 2

トップページ画像 3

▮ 社学共創の取り組みを学内外へ発信する

21世紀懐徳堂では様々なステークホルダーと共に社学共創プロジェクトを行っている。新サイトには各プロジェクトの紹介ページを設け、具体的な取り組み内容を発信している。今後は、21世紀懐徳堂の活動をPRすることに留まらず、大学におけるアウトリーチ活動のあり方を提起できるようなページとして充実させていきたい。

大阪大学公開講座

サイエンスアゴラ in 大阪

クリエイティブアイランド中之島／アートエリアB1

【課題】

今年度は新ウェブサイトの制作・構築・運用開始という大きなミッションを完了させることができた。来年度からは、市民の方々のニーズに即した情報発信や学内組織の広報支援等、運用面での充実を図っていきたい。

● 広報活動

【活動概要】21世紀懐徳堂では、リニューアルしたウェブサイトや21世紀懐徳堂メールマガジンの他に、SNSでのイベント等の情報発信や近隣自治体の広報誌への情報提供、学内ディスプレイシステムであるO+PUSでの放映、プレスリリースなど様々な広報活動を行い、21世紀懐徳堂の社学共創活動を支えている。

▮ SNS：X（旧：ツイッター）、Instagram

2023年1月よりXを、2024年2月からはInstagramを開始し、画像とともにイベント情報などの発信を行っている。

【成果と課題】

X、Instagramともにフォロワー数が多いとは言えない状況ではあるが、イベント情報などの投稿を継続して行い、21世紀懐徳堂ウェブサイトのイベント情報へのリンクを付け、ウェブサイトへの流入も増やしていきたい。

2月にはサイエンスアゴラin大阪のInstagram・Facebookのストーリーズ／リール／フィード広告を2024年2月22日～3月10日まで行い、関西圏在住の建築、防災、ファッション、大阪大学などに興味のある幅広い年代に情報を発信した。

21世紀懐徳堂X

21世紀懐徳堂Instagram

▮ 近隣自治体広報媒体への掲載

豊中市「広報とよなか」
・阪大ワニカフェ（複数回）

箕面市「広報紙もみじだより」
・大阪大学公開講座（2023年10月号）
・サイエンスアゴラin大阪（2024年3月号）

吹田市「市報すいた」
・阪大ワニカフェ（2024年2月号）
・サイエンスアゴラin大阪（2024年3月号）

人権・文化・スポーツ

大学連携

科学と社会をつなぐオープンフォーラム　サイエンスアゴラ

■3月15日㈯午後6時30分～8時30分　場大阪大学中之島センター（大阪市）またはオンライン参加　内「水都大阪のバタフライエフェクト～いのちをめぐる人・まち・世界」と題して、基調講演とディスカッション　講堂目卓生さん（大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長）ほか　定120人（申込順）　料無料　申3月10日㈰までに大阪大学21世紀懷徳堂ホームページ（QRコード）の申込フォームから（オンライン参加は申込不要）

※出演者など詳しくは、同ホームページをご覧ください

問サイエンスアゴラin大阪担当☎㈫6881・8113（平日午前10時～午後6時、同21世紀懷徳堂☎㈫6850・6443、文化国際室☎724・6769 FAX724・6010

箕面市「広報誌もみじだより」2024年3月号掲載の記事

【成果と課題】

2023年度も21世紀懐徳堂が主催するイベントにおいて、近隣自治体の広報媒体に情報を掲載いただいた。スペースが限られる中、大阪大学公開講座やサイエンスアゴラin大阪では二次元バーコードを掲載し、特設サイトへの流入を促した。広報誌への掲載は、数か月前に掲載依頼や原稿提出の必要があるため、今後も早めに各自治体担当者や学内の担当者と調整していきたい。

▮ O+PUS への掲載

・2023年7月19日～25日まで
　国際交流科目「インターンシップ実習」受講の留学生2名よる成果活動報告会（@くるる石橋）
・2024年2月9日～3月15日まで
「サイエンスアゴラin大阪」（@大阪大学中之島センター）

▮ プレスリリース

・2024年1月29日／2月8日リリース　「サイエンスアゴラin大阪」

●アウトリーチ活動支援

【活動概要】21世紀懐徳堂は、研究者のアウトリーチ活動推進の一環として、「広報支援」、「21世紀懐徳堂スタジオ・楽屋の貸し出し」、「ラボカフェの開催」を行っている。

「広報支援」として次のことを行っている。①各学部・研究科等が主催する一般の方を対象としたイベント情報の21世紀懐徳堂ウェブサイトへの掲載及びSNSへの投稿②「21世紀懐徳堂メールマガジン」の配信③キャンパス内や一部モノレール駅へのチラシ配架のサポート④ウェブサイトの活用

【広報支援】

対　　象 ： 学内外の社学共創に関する取り組み

申請方法 ： 支援依頼書を提出（21世紀懐徳堂ウェブサイト／マイハンダイからダウンロード可能）

▮ 21世紀懐徳堂ウェブサイトへのイベント情報の掲載…リニューアル後76件

【成果】今年度も21世紀懐徳堂ウェブサイトに多くのイベント情報を掲載した。2023年11月のウェブサイトリニューアル以降は、「開催前・開催中・終了」や「申込不要・受付中・受付終了」等、開催や受付状況が視覚的に分かりやすいよう、アイコンで表示している。

また、ウェブサイトのイベント情報に掲載したものは、XやInstagramでも投稿し、積極的に広報活動を行っている。

21世紀懐徳堂ウェブサイト イベント一覧

▮ 「21世紀懐徳堂メールマガジン」の配信…旧メルマガシステム55件・新メルマガシステム24件、登録人数…約2700名

【成果】2023年12月にこれまで使用していた広報課のメルマガシステムから、新しいメルマガシステムを導入した。さらに、2月にはメルマガへの画像添付と外部サイトリンクも可能となり、操作性の向上と、より読みやすいメールマガジンを発信することができるようになった。新旧合わせて、79件のメールマガジンを配信し、登録者は約2700名前後で推移している。

▮ キャンパス内や一部モノレール駅へのチラシ配架のサポート…19件

【成果】広報支援依頼のあった部門を中心にキャンパス内（大学会館玄関や総合学術博物館、各キャンパス学生センター、図書館）、医学部附属病院、歯学部附属病院、モノレール駅（千里中央駅・阪大病院前駅）へのチラシ配架のサポートを19件行った。また、2024年2月からは千里ニュータウンプラザ2階にある千里ニュータウン情報館へもチラシ配架を開始した。

▮ ウェブサイトの活用

【成果】ウェブサイトの「ニュース」欄に学内の記念事業の関連記事を掲載した。2024年は大阪大学の源流の一つである懐徳堂の300周年にあたる年であるため、来年度に開催される記念事業へ向けて【懐徳堂300周年記念コラム】第1～3回を掲載し、記念事業におけるアウトリーチ活動の支援を行った（引き続き、来年度も第4～6回を掲載予定）。

21世紀懐徳堂ウェブサイト ニュース詳細

▮ 全体を通しての課題

2022年度の実績と比較すると例年開催しているイベントについては、広報支援の依頼があるが、単発のイベントに対する依頼が少なく、依頼部門に偏りがあるため、今後も学内への周知を続ける必要がある。21世紀懐徳堂ウェブサイトのイベント情報のリクエストボタンについては、集計をとり、大阪大学公開講座等イベント開催時の検討材料にするなど活用していく必要がある。メールマガジンに添付する画像には、21世紀懐徳堂ウェブサイトのイベント情報へのパラメーターを設定したURLを紐づけ、今後ウェブサイトへの流入も促し、さらなる21世紀懐徳堂の認知度向上に努めていく。

●21世紀懐徳堂スタジオの利用状況

【概要】21世紀懐徳堂は演劇をはじめとするパフォーマンスやトークイベントなどに学内関係者が利用可能なスタジオ（「楽屋付き」）を大阪大学会館1階に保有している。主催事業を行うほか、学部等が開催する社学連携事業や社学連携関連の授業などの場として提供している。

▮ 仕様

【21 世紀懐徳堂スタジオ】

面積　：165㎡

設備　：天井吊プロジェクター、スクリーン、ODINS無線LAN等

【楽屋】

面積　：83㎡

設備　：化粧台・鏡・テーブル・空・ホワイトボード等

▮ 利用状況と課題

【利用状況】今年度も様々な社学連携関連事業およびイベントの活動拠点として利用された。2023年4月9日(日)の大阪府知事・府議選挙、同年4月23日(日)の豊中市議会議員選挙の「期日前投票会場」として、市民・学生が投票に訪れ、政治意識向上に貢献した。その他、人間科学研究科による「日本応用老年学会大会」や理学研究科による「日本比較生理生化学会」等、部局主催イベントや、ｻｰｶﾙ劇場による演劇や大阪大学軽音学部SWINGによる音楽イベント等、学生によるイベントも開催された。年間を通し、多岐に渡るイベント会場として利用され、計910名が使用した。21世紀懐徳堂スタジオは大阪大学の社会資源として大いに活用されている。

2月には、利用者の利便性向上とメンテナンスのため、映像デジタル化及びプロジェクターランプの交換を行い、AVラックの操作方法の変更点や機材使用時の注意点について、過去の利用者に周知した。

【課題】映像デジタル化及びプロジェクターランプの交換をしたものの、機器や備品の老朽化が見受けられる。また、スタジオ内部の室温が希望温度になるまでには盛夏・厳冬には1時間以上を要するため、早めに電源を入れておく必要が出てきている。スモークマシン等の使用について制限する等、老朽化に伴う安全対策を施す必要が出てきている。

▮ スタジオ利用者の感想と利用風景

・コロナが明けて、対面での演劇などできるようになって良かった。
・座席数が増えて良かった。
・スタジオ講習会をやってほしい。
・くぎを打って、平台が固定したい。

演劇イベントのリハーサル時の様子①

演劇イベントのリハーサル時の様子②

大阪大学21世紀懐徳堂　活動報告書2023

2024年3月発行

編集・発行　大阪大学21世紀懐徳堂
編集責任者　上林梓・瀬島梨奈
制作　株式会社 I am.

〒豊中市待兼山町1番13号　大阪大学会館4階
TEL：06-6850-6443
office@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp

大阪大学
21世紀
懐徳堂